

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学	前期日程	科目	数学(理系)
-------	------	----	--------

総 括	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

＜総 論＞ 昨年同様に受験生にとって解きやすい設定の問題が多かった。以前に比べて計算量が少なくなり、じっくりと考える時間を確保できる問題になっている。一方で、大問2(1)や大問3(2)(3)など議論の仕方(記述力)が問われる問題があり、受験生は苦勞したであろう。全体として、高校数学に対する理解力、計算力、記述力が問われる問題であり、学習の成果が現れる問題である。 ＜特記事項・トピックス＞ 数学Ⅲの微積分に関する問題が1題のみの出題であった。(2題出題されることが多い。) 2024年度以来、2年ぶりに空間ベクトルからの出題があった。 昨年と同様に数学Aの「数学と人間の活動」に属する整数が出題された。 昨年と同様に文科との共通問題が1題、ほぼ共通の問題が1題と計2題出題された。 ＜合格への学習対策＞ 各分野における典型的な問題を論理的に記述する学力を養成することから始めたい。頻出分野は「確率」、「整数」、「微分法」、「積分法」であるが、これらの学習のためには他分野の理解も必要不可欠である。次に、過去問演習などの実践的な問題演習において、新たな問題とじっくり向き合い、問題の理解や解答の方針を立てるための思考力を養いたい。記述力を磨くために、答案作成の練習もしておくべきである。
--

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅲ	微分法 積分法	(1)ではCと2直線で囲まれた部分の面積を三角形の面積を利用して考えるとよい。(2)では2直線のなす角 θ について、傾き利用して $\tan \theta$ を求めると考えやすい。(3)では $\log$ を分解してから微分するとよい。	やや易
2	記述	C	空間ベクトル	平面H上の点P、直線DE上の点Qについてベクトルを用いて考える標準的な問題である。(2)では点Qが線分DE上にある条件を解答例のように $0 \leq u \leq 1$ として考えるのがポイントである。	標準
3	記述	A	整数 場合の数	「整数」分野の条件を用いているが、実質「場合の数」を問う問題である。(2)では素因数分解をし、素因数の種類に着目することがポイントである。(3)では(2)の結果をもとに、3数の中に等しいものがあるかどうかに着目して場合分けを行うことがポイントである。	標準
4	記述	A B	確率 数列	状態推移の問題と考えれば典型的であるが、具体的な座標ではなく「どの直線上にあるか」に注目するところがユニークで対応力が問われる問題である。確率漸化式は名古屋大学では頻出である。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。